



平成 29 年度

上宮中学・高等学校

学校評価

— 学校自己評価書 —

 ENOMIYA

目 次

	(頁)
I 上宮中学・高等学校の教育理念	… 2
A 建学の精神 (mission)	
B 教育目標 (vision)	
II 学校評価のあり方	… 3
III 各分掌における評価項目と自己評価	
①教科	… 4
②学年	… 14
③コース	… 21
④進路指導	… 26
⑤教務	… 30
⑥生活指導	… 35
⑦入試対策	… 36
⑧保健管理	… 37
⑨教育相談	… 38
⑩データ処理	… 40
⑪生徒会	… 41
⑫人権教育	… 42
⑬図書・視聴覚教育	… 43
⑭広報戦略	… 45
⑮ I D	… 46

I 上宮中学・高等学校の教育理念

A 建学の精神 (mission)

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育理念の根底におき、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育を目標に「上宮教育」を推進し、実践する学校である。

校訓「正思明行」は、仏教の八正道における正思惟に由来し、中学生・高校生として生徒一人一人が、自らの思惟によって、児童期にありがちであった自己中心的な身勝手な考え方の誤りを明らかなものにし、正していくことによって自らを成長させ、青年として自信を持って主体的に行動することを説いている。また、学順「一、掃除・二、勤行・三、学問」とは、浄土宗の『住持訓』に倣うものであって、掃除とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは学業に専念し精進努力することの価値を説き、それは単なる成果主義の否定でもある。学問は授業そのものに止まらず、人として正しい生き方、つまり、人倫を学ぶことである。掃除と勤行を学問より先に掲げるのは、成績至上主義に陥ることへの戒めであり、学順はその重要性において並列の関係にある。

B 教育目標 (vision)

上宮中学・高等学校の教育目標は建学の精神に基づき、法然上人が説かれた人倫と仏の慈悲の精神を多くの若者に分け与えることである。

時代の波が変化しても、建学の精神をもって人間道の目的理想を見つめる正真の眼を育て、また、理想に向かって励み進む剛健の足を育てることが本校の使命である。

教育の三本柱は「知・徳・体」の育成であるが、「上宮教育」はこの三本柱のバランスを重視している。その中でも、知・体に偏らず、他校ではできない心の教育の実践を目標とする。それは知識・学力の向上だけではなく、総合的な人間力を向上させる教育である。長い人生の礎を築くことこそが学校本来の役割であり、上宮の本旨である。

Ⅱ 上宮中学・高等学校の学校評価のあり方

2007 年の改正学校教育法において、学校評価の実施・公表に関する規定が整備された。それには 1 年間の学校の取組を振り返り、自校のよさや特色、生徒の成長等を確認し、より一層の充実に向けて改善の方向を明確にするために実施することが記されている。また、評価結果を外部に公表し、保護者や地域の人々に生徒の成長・教職員の努力等を理解してもらい、学校への信頼を確かなものにしてもらうことが謳われている。

本校には「上宮中学・高等学校の基本理念と学校方針」があり、上宮教育の根となる「建学の精神」、茎となる「教育目標」、そして枝、葉となる「戦略・戦術」、「計画」が説かれている。上宮教育において、根と幹は揺るぎないものである。

各分掌・組織は「建学の精神」と「教育目標」を基礎としながら、有効な手段を用いて上宮教育を推進・発展させていく必要がある。そのため、年度毎に各分掌・各組織の現状を把握・認識し、自ら評価を下し、その反省の基に新たな課題と目標の設定を行わなければならない。この作業は本校の「戦略・戦術」の構築と実践であり、将来を見据えた「計画」のもとに行われるものである。それは上宮という木に光を当て、根や幹に栄養分を送るという重要な役割を果たすことになる。すなわち、枝振り（枝葉）はこの先に形を変えながらも、太く逞しい根や幹をもつ上宮という木を育てるのである。これが本校の学校方針である。したがって、本校にとって学校自己評価とは、「戦略・戦術」の構築・実践・改定を世に明らかにするものと捉えられる。

我々はこの作業において各分掌・組織のあり方を認識し、その中における自己の役割を認識する。それは教育職としてのスキルアップへと発展すべきものである。今後、我々は上宮のあるべき姿、すなわち未来を共通に認識することで、「個」の力を「組織」の力に変えていくのである。

Ⅲ 各分掌における自己評価

①教科

平成２９年度教科（ 国語科 ）

分掌目標	国語力—コースの目標に応じた入試に対応できる力だけではなく、生涯を通して生きる力の基礎となるもの—の充実	
	重 点 課 題	評価 成 果 と 課 題
①	・ 基本的国語力の充実を図る。 ・ 授業の厳正化を図る。	B 基礎力の充実がある程度図られたことは、入試結果に反映されていると思われる。学年・コースによっては、残念ながら満足いく結果にはなっていなかった。
①	学力推移調査・模擬試験の全体把握 ・ 結果分析と対応策の検討。	B 各先生方で、それぞれ個別に対応してもらえている。
②	教科会の活性化 ・ 情報の共有 → 定例化	A 月１回のペースで実施した。
③	補講習の充実 ・ 全教員（専任・常勤・非常勤）が全学年で実施 ・ コースの教育プランに基づいた（コースからの要請のあった）補講習が実施できるよう取り組む。	B 全コースにおいて、コースから要望のあった補講習は実施できたと思われる。
④	漢字検定・日本語検定の対策と活用 ・ 生徒への広報の徹底 ・ 漢検において、過去問に対して積極的な取り組みを促すことにより、合格率の向上を図る。	C 漢字検定・日本語検定の生徒への広報は徹底された。 漢検受検の前に過去問を解くなどの対応があまりできなかった。
⑤	教育プランとシラバスの改訂 ・ 前年度作成した〈教育プラン〉と〈シラバス〉を、現状に合わせて改訂していく。	B ３０年度に向けて、必要な個所は改訂できた。

分掌名 (社会科)

分掌目標	・ コース別（受験形態別）指導の確立		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 学力推進プランの検討について ・ 現状分析（授業内容を含め） ・ 3 ヶ年及び6 ヶ年におけるコース別推進プランの検討 ・ 高大連携を踏まえたプランの検討 ・ 国立コースのカリキュラムの検討	A	各コースの特徴を考えた、計画をたて、それを実行できた。	
② 定期考査、模試の利用と活用について ・ 具体的な目標値の設定 ・ 分析と検討・対策 ・ 生徒指導への活用	B	各科目ごとに検討したうえで、定期考査を実施した。	
③ シラバスの検討について ・ 学力推進に基づき、3 ヶ年・6 ヶ年それぞれのシラバスについて授業を展開しながら検討する	B	シラバスに沿って授業を展開できた。	
④ 教科会について ・ 教科会への全員参加 ・ 会議の定例化 ・ 教員間における情報の共有化 ・ アクティブラーニング等の研修	B	十分に教科会が開けなかった。(行事・主張等により)、教員の研修の場としての教科会を開けなかった。	
④ 補習・講習について ・ 各コースの特性を考えての実施 ・ 実施内容の検討 ・ 学年・コースを超えた講習の実施	A	各科目の特性にあった穂講習を実施できた。	

分掌名 (数学科)

分掌目標	・ コースに応じた学習プランを作り学習効果を挙げる		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
⑤ 学力推進プランの作成について ・ 現状分析（授業内容を含め） ・ 3 ヶ年及び6 ヶ年におけるコース別推進プランの作成 ・ 高大連携を踏まえたプランの作成	B	4 月の段階でだいたいの年間計画は立てられるが、年度により生徒の能力に差があり計画通り進むことができない。	
⑥ 定期考査、模試の利用と活用について ・ 具体的な目標値の設定 ・ 分析と検討・対策 ・ 生徒指導への活用	B	教科書は終了することで精いっぱいなかなか模擬試験対策までの授業が展開できない。	
⑦ シラバスの作成について ・ 学力推進に基づき、3 ヶ年・6 ヶ年それぞれのシラバス作成	B	各先生方の協力によりそこそのものができあがった。あとは実践に基づき改良していきたい。	
④ 教科会について ・ 教科会への全員参加 ・ 会議の定例化 ・ 教員間における情報の共有化	B	各先生方は講習、その他の公務を優先されているので、全員参加教科会が開けていないのが現状である。	
⑤ 補習・講習について ・ 全学年、各コースでの実施 ・ 実施内容の検討 ・ 学年・コースを超えた講習の実施	B	どの先生も積極的に普段の講習はもとより、休暇中の講習もしていただき効果はできていると思います。	

分掌名（ 理 科 ）

分掌 目標	理科の教員間での情報の共有化をはかる。 授業の充実をはかる（実験も出来る限り取り入れる）。	
評価項目	評価	課題
①教育プランの作成に向けて （作成にあたり配慮すべき事項） ・現状の問題点の把握 ・新学習指導要領「理数教育の充実」をはかる ・各コースの特色をいかす ・模擬試験等の活用を図ること ・生活適応力の養成を心掛けること ・教員の仕事の分担を配慮すること	C	昨年度分の再検討をするにとどまっている。
②シラバスの作成に向けて （作成にあたり配慮すべき事項） ・教育プランを基にすること ・授業担当者間で相談し、弾力的に運用する	B	授業進度・深度について、各学年・各科目担当者間での連絡は密にとり、共通認識がとれている。
③模擬試験等の結果把握に向けて ・試験問題の結果等の分析と対応の検討	C	各担当者で実施しているが、教科全体で分析と対応をすることも考えたらいいと思う。
④教科会・情報交換会の活性化に向けて ・各学年・各科目担当者間の連絡を密にする ・会議・打ち合わせ内容の徹底	B	定例的に教科会は実施した。しかし、なかなか全教員が参加できていないのが現状である。
⑤補講習の充実に向けて ・補講習実施を前提とした授業の配当 ・補講習内容の検討 ・補講習が効果的に実施できるシステム作り	C	生徒の学力を上昇させるための補講習をさらに検討しなければならない。
⑥教員の教育力向上に向けて ・各種研修会への積極的参加	C	授業や担任業務のため、なかなか出張に出れないのが現状である。
⑦授業の充実に向けて ・生徒の意識付け ・基礎学力の定着 ・応用 ・授業内容に最新科学情報の盛り込み	B	各科目で授業ノートをつくり、授業内容を統一するようにしている。少しずつではあるが、成果は出てきていると思う。
⑧実験授業の充実に向けて ・実験設備の管理計画の立案	B	授業内容やコースにもよるが、積極的に取り組んでいる。
⑨人権意識の涵養に向けて ・障害者等に対する配慮する（光、音、遺伝等）	A	授業時の表現には、細心の注意を払っている。

分掌名（ 保健体育科 ）

分掌目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育成する。 また、規律ある態度を育てる。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
選択体育の内容の充実と研究	C	専門性を活かした授業内容が行えている。 一方、場所と人数の制限により、効率的な活動には限界がある。
安全に留意し怪我、事故の無い授業をすすめる。	B	大きな怪我や事故はなく、授業が進められた。
規律ある態度の育成と活気のある授業を目指す。 自主的に授業に参加する態度を育てる	C	楽しく活気のある授業がほぼ行えているが 自主的に参加しようとする生徒にはばらつきが 見られるところが課題である。
体力の向上を重視し、健康や体力の状況に応じて 体力を高め、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度 を育てる。	C	種目の内容により、体力的な向上には差が 生じるが、スポーツを楽しむ態度は養われつつ ある。
教員の資質向上 ○ 教材研究の徹底。 ○ 教員間の情報交換。 ○ 研究会・講習会への積極的参加。	D	体育・保健に関わる研究会、講習会の参加 をもっと積極的に行う必要がある。

分掌名 (英語科)

分掌目標	英語力向上の取り組みと実践教育。文科省発表 2020 年から実施される新しいテストの情報収集、アクティブラーニングの模索		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
英語学力の向上 正しい発音の認識と音読指導 英語に対する興味付け 単語テスト・既習事項の確認テストの充実 宿題・課題・補習の充実 修学旅行の事前学習	B	生徒たちの英語学力向上について、各担当の先生方は概ね目標を達成しております。	
資格試験の情報提供 GTEC・TOEIC の指導・事前学習 GTEC for STUDENTS(高 1 も Advanced 受験) 第 1 回統一検定日：6/17(土) 第 2 回統一検定日：12/2(土) 実用英語技能検定の情報提供・申込み 第 1 回；1 次 6/4(日) 2 次面接試験 7/2(日) 第 2 回；1 次 10/8(日) 2 次面接試験 11/5(日) 第 3 回；2018 年 1/21(日) 2 次面接 2/18(日)	B	GTEC について、本年度より高 1 生徒も Advanced を受験しました。また、第 2 回は 3 技能に加え、パワー・英数・特進のコースはタブレットを利用したスピーキングを実施。実用英語技能検定について、学校で年 3 回受け、外部受験として実施しました。	
大学入試「新しいテスト」の情報収集 H30 入学高校 1 年の大学入試時より導入予定の「新しいテスト」の英語についての情報収集と英語科教員共有化	B	英語の 4 技能(Reading・Listening・Writing・Speaking)について情報収集を行ないました。 今後、英語科教員共有化が課題です。	
アクティブラーニング導入への実施に向けて 情報収集と研究授業等、実践報告の共有化	B	アクティブラーニング導入実施に向けて、授業に導入されている先生もいます。今後、研究授業、実践報告の共有化が課題です。	
英語科教員間における情報共有化とその利用 教科内の授業担当者同士の情報共有・充実 共有化した情報の利用方法の検討	C	英語科教員間における情報共有化は不十分であった。	

分掌名（ 芸術科 ）

分掌目標	個性豊かな表現と、鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
芸術を親しみそれを愛好する心情を伸ばすようにする	B	高校1年次のみの実施のため、基礎的内容から、それを活かした応用へ移ることが難しいので、工夫が必要である。
芸術への関心を高めるよう内容を構築する (生徒の制作意欲を高める工夫をする。)	B	生徒の創作意欲の湧くような内容を検討していく必要がある。
表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る	B	制作などに時間をほとんど費やすため、鑑賞の時間をつくる工夫が必要である。(1年間の実施のなかで、いろいろ対応しなければならないことが多く、難しさを感じる。)
教科会の活性化及び各学年コース・中高担当者同士の情報交換の活発化	A	情報交換は出来ていると思う。
各担当者の授業の実施方法について教科内の連携を図る	A	各科目の担当者どうしでの連携は、概ねとれていると思う。
共学化により、指導上において男女生徒への指導の仕方に差が出ないように注意する。	A	概ね出来ていると思われる。
その他 評価について	A	各教科にて共通の5段階の評価基準を設けることが出来た。

分掌名（ 情報科 ）

分掌目標	授業で生徒のプレゼン能力の育成を図る指導をする。		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
生徒のコンピュータのスキルが向上するように指導する。		A	入学してくる生徒のスキル、知識とも片寄っているが、情報科の指導でスキル、知識とも向上している。
情報モラルの指導を徹底する。		B	近年スマートフォンによるSNSなどの問題 が多数発生し、情報モラルの指導は多くの時間をとって指導しているが、家庭での教育も必要であり、保護者への講習等も必要である。
生徒のプレゼン能力の育成を授業内で行う。		A	授業でプレゼンをさせる機会をなるべく多く とり、生徒はプレゼンの経験をすることによって自己表現が豊かになった。班ごとに教員からコメントを手書きするなどきめ細かな指導 が出来た。
詳細な年間指導計画を作成する。		B	例年通り詳細な年間計画を立てることが出来た。
教科内の連携の強化を図る。		C	個々の教員に制約があり、教科内で連携をとり、指導内容、授業進度などの打ち合わせを十分行うことが出来たとは言えない。 今後は他教科との連携も必要であると考えている。

分掌名（宗教科）

分掌目標	宗教の授業で「釈尊」や学校祖「法然上人」などの宗教的偉人の生涯とその思想を学び、宗教行事（合掌の姿勢・態度）を通じて宗教情操の涵養に努める。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
1、各学年における授業内容の検討 ○ 授業の進め方の協議 ○ 授業内容及び進捗状況の連絡	B	授業の進め方：頻繁に協議する機会は少なかったが、話す機会は多くなった。進捗状況：授業担当者同士が互いに把握できたように思われる。	
2、教材研究 ○ 参考資料の検討 ○ 教材プリントの作成 ○ 教授資料の共有	A	参考資料：担当者が各自工夫。 教材プリント：担当者が各自工夫。 資料の共有：学年及び単元によって共有する資料の数量は変わってくる。概ね良好。	
3、宗教行事について ○ 宗教行事における事前指導 ○ 行事関係部署との連絡・協議	B	事前指導：関係部署の御協力で納得のいく指導が出来たように感じる。本校の宗教行事は他校より少ないが、行事数を増やすより、その質を上げて行きたい。	
4、教科会の開催 ○ 月1回程度の定期的な開催 ○ 教科内での意見交換・情報交換	A	月1の教科会：理想的ではあるが、実際は困難である。情報交換：思っている以上に新鮮な情報を持っていることが多々ある。次回は意見・情報交換を活発に行いたい。	
5、宗教教育と道德教育 ○ 宗教教育と道德教育についての研究 ○ 宗教教育と道德教育の実践・推進についての検討	A	本校は宗教教育を行っているが、道德教育の項目にも対応する必要がある。	
6、老人福祉体験学習 ○ 実施施設との連絡・協議 ○ 学習内容の検討	A	施設との連絡・協議：実施施設と本校の関係は良くすべて遺漏なく実施できた。学習内容は実施施設のおかげで年々改良されている。	
7、ボランティア活動への参加 ○ ボランティア情報の把握・収集 ○ 災害などの募金活動 ○ 寺院・地域への奉仕活動	C	ボランティア活動への参加は、ほとんど実施することができなかった。老人福祉体験学習をいかにボランティア活動に繋げるかが今後の課題として残っている。	
8、宗教関係学校との情報交換 ○ 宗門関係学校との研究会 ○ 仏教関係学校との行事	A	宗門校：宗教情操教育研究会での意見交換も活発におこなっている。 仏教関係校：「花まつり」の行事を中心として関係学校と活発に情報交換ができています。	

分掌名（ 技術・家庭科 ）

分掌目標	生活に必要な基礎の知識を確立し、生活の自立が出来るように指導する。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
生徒がより理解できるように授業内容を検討する	A	授業アンケートの結果を見ても悪くはなかったので、達成できたと思う。
教科内で情報共有，連帯強化出来るよう教科会の開催頻度を増やす	C	講師の先生の出講日の制限もあり全員が揃う曜日がなかなか無く、教科会を開催しづらかった。
男女共学での授業の進め方や、指導の仕方で差が出ないように注意する	A	おおむね達成できた。
教員の教育力向上に向けて研修会等への積極的な参加	C	分掌の仕事の出張が多く研修会等になかなか参加できなかった。
実習授業の取り入れに向けて受け入れ施設等の検討	C	引き続き検討を続けたい。

②学年

分掌名（ 高校３年 ）

分掌目標	生徒一人ひとりに寄り添い、生徒一人ひとりの進路保障をしっかりと確立。その視点からの生徒指導と進路指導を実践する。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 学年目標の設定 ・学校の教育理念 校訓「正思明行」の具体化 ・学順「一に掃除（心身の保健衛生・整頓済美） 二に勤行（勤労愛好と業務精進） 三に学問（智慧を完成する学問解明）の実践 特に教室の清掃については日々実践の事	B	継続	
② 年間行事予定 ・高３オリエンテーション ・保護者対象説明会と学級懇談会 ・コースごとの生徒対象進路説明会 ・卒業式	A	概ね良好であった。各クラス学級懇談会を活発に行い充実していた。今後も継続。	
③ 学年運営及び学年会の活性に向けて ・学年会検討事項の事前伝達 ・各コース間の連携 ・各大学の説明会への参加分担	B	学年主任は６ヵ年コース会議に参加すべきであった。	
④ 補習・講習に関して ・放課後の補習講習の計画立案 ・夏期休暇前後の補習講習の計画立案 ・冬期休暇前の補習講習の計画立案	B	計画的に実施できた。参加者が少ないのが反省点である。	
⑤ 生活指導に関して ・基本的生活習慣の徹底 ・勤務状況の把握 ・「事故」未然防止の指導 ・生活指導部との連携 頭髮一斉指導への協力 ・配慮を要する生徒への積極的な関わり ・全教員が共通認識を持って指導にあたる。	B	２件の生活指導上の事故があった。その他はおおむね良好であった。	

分掌名（ 高校２年 ）

分掌目標	生徒一人ひとりと向き合った生活指導と学習指導及び進路指導の充実。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 学年目標の設定 ・学校の教育理念、教育目標の具体化 ・生徒の主体性を培う	A	生徒は、２年間に在籍しているので、おおむね浸透している。	
② 年間行事予定の作成と実行 ・生徒対象進路説明会 ・保護者対象進路説明会 ・夏期休暇前後の補講習及び合宿 ・冬期休暇前の補講習 ・春期休暇前の補講習 ・成績不振者の召喚と指導	A	特には問題なく実施できている。	
③ 学年会の活性化に向けて ・検討事項の事前伝達 ・資料の事前配布 ・会議日、時間の設定 ・生徒への配布物を各担任へ配布	B	コース制なので、各コースの主任・担任がよくやっている。	
④ 生活指導 ・生活指導部との連携 ・頭髮一斉指導への協力 ・謹慎申し渡し及び解除への出席 ・基本的生活習慣の徹底	B	問題を起こした生徒はいるが、その後の生活は順調である。 頭髮指導は担任間で若干のずれはある。	
⑤ 学習指導 ・計画的な補講習の設定 ・継続的な補講習の実施 ・専任教員の重点配当 ・補講習が効果的に実施できるシステム作り ・補講習実施者への手当の支給 ・小テストの実施 ・成績不振者の対応	A	各コースにおいてできるだけことはしている。	
⑥ 進路指導 ・進路指導部との連携 ・模試の過去問題の印刷 ・模試の結果分析 ・学力向上へ向けての検討 ・個人面談、三者懇談の実施	B	特に問題なく実施している。	

・高大連携に関わって 大学見学会の実施 推薦基準値の設定 ・各コースの特色が生かせる学習指導 プレップ文系 プレップ理系 プレップ技能 英数文系 英数理系 パワー文系 パワー理系 一貫特進文系 一貫特進理系 一貫プレップ文系 一貫プレップ理系		
⑦ 修学旅行 ・生徒対象事前修学旅行説明会 ・保護者対象事前修学旅行説明会 ・業者との打ち合わせ ・収支決算報告	A	特に問題はないが、制服と私服に関するこ とは、継続中です。

分掌名（ 高校 1 年 ）

分掌目標	習得型学習行動の定着		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
①育成する生徒像に関して 今年度の標語「当たり前のことをバカにな ってちゃんとやる」に向けての徹底指導	B	標語をクラスに掲示し、機会あるたびにし どしたが、徹底できたかどうかとなると、 そこまで徹底できなかった。来年度も引き続 き指導を行う予定。	
②学習指導に関して 分掌目標にある学習行動のうち、家庭学習 の確保・宿題をきちんとやる等の習得型学習 の定着のための学習方略についての指導	B	スタディーサポートの結果を見ると、学習時 間が増えているとは言えない。その理由につ いては不明であるが、来年度は定期的に学習 時間を意識させる指導を行う。	
③生活指導に関して 基本的生活習慣の確立に向けての家庭との 連携及び教員間の情報共有	B	概ねできているように思うが、教員間の情報 共有という点においてはさらに改善の余地 がある。	
④進路指導に関して 文理選択に向けてのHR等を活用した適切 な指導	A	HR及び学年集会を通じて、特に理系進学を 考える生徒に対しては、深く考えた腕結論を 出すよう、何度も指導を重ねた。	
⑤学年運営に関して 各コースの特性を活かした行事等の取組 コース共通で指導可能な取組の共有	A	進研デジタルサービスを徹底的に活用する、 という方針を立て、各担任が概ね真剣に取り 組んだ。その結果一部のコースを除いて 95% 程度の生徒が活用した。	

分掌名(中学 3 年)

分掌目標	- 充実した学校生活の確立と高校へつながる学習習慣の定着をめざす。 - 学校行事を通して、人間的な成長を図る。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
1. 6 か年教育プランに基づく中 3 学年目標の設定と実践	B	学習習慣の定着に関しては、担任、担当教科の協力の下、おおむね満足できるものであったが、実力を伸ばすまでには至っていない。	
2. 基礎学力の定着に向けた、宿題・早朝テスト・補講習等の企画と運営	B	早朝テスト（国・数・英）ともに授業の中で取り組まれていた。 考査前の 5 教科確認テストが効果的であった。	
3. 修学旅行の企画と実行。	A	修学旅行は国内最後となり、事前学習を含め、充実した内容となった。卒業文集や卒業アルバム作成に時間と手間を要したが満足のいくものができた。	
4. 卒業証書授与式の企画と実行。	A	卒業証書授与式の企画と実行については、予定通り進めることができた。	
5. 高校進学に向けた進学特別補習の企画・運営	B	予定通り実践できた。1 学期中間考査後から、該当者を選定し学年末考査まで実施した。 不登校生や他校進学者への対応に迫られた。	
6. 学力推移調査結果の把握と学年としての取組み案作成と実行	B	過去問で対策を実施したが、学力推移調査の結果については、なかなか厳しい。各教科で、習得しえていない分野などについての更なる取り組みが必要である。	
7. 学年と各分掌（生活指導・進路指導・入試対策・各教科）との連携と情報共有	A	学年団の先生方や教科担当者の協力のもと滞りなく進めることができた。	
8. 保護者説明会・三者懇談・学級懇親会の企画と実施	A	保護者説明会については、各教員と相談しながら進めることができた。特進、英数へのコース変更の際のやわかりやすい基準の明文化が必要と思われる。	

分掌名(中学 2 年)

分掌目標	- 基本的な生活習慣の定着。 - さまざまな活動を通して、自主性を養う。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
中学生として、充実した学校生活の実践	B	普段の授業および放課後学習などを通して、個々の生徒が自主的に活動する力を培えるよう尽力した。
自学自習力の定着	B	帰宅後に自分一人で勉強する習慣を身につけるために、復習課題を与え、取り組ませた。さらに、週明けの終礼時に小テストを行い、自学自習力の定着につなげた。
勉強合宿、スキー実習の企画と実行	A	それぞれの目的に即して、合宿を企画実行。中2では、特に集団行動を行う上で、協調性の大切さについても理解させることができた。
校外学習等の学校行事の作成と実行	A	9月の校外学習では、「京都の歴史探訪」を通して、友人関係の構築やコミュニケーション能力の向上を目指した取り組みができた。 3月の近大英語村では、ネイティブと触れ合い、英語を楽しく学ぶ機会を持たせることができた。
学年からの宿題、早朝テスト、補講習等の企画・運営	B	基礎力の定着を目指して、国語・数学・英語の3教科で実施したが、小テストでの不合格者・補習対象者が固定してしまった。
学力推移調査結果の把握と学年としての取り組み案作成と実行	B	4月実施の学力推移調査結果を受けて、得点率の低い問題の原因を探りつつ、10月実施分につなげた。特進・アップともに、目標のSSへの到達につながる対策が必要である。
学年会および授業担当者同士の情報交換の活性化	A	担任および学年団の教員には、意識的に連絡を密に取り合い、情報の共有に努めた。また、定期的に行う学年会では、組の現状報告などによって、情報交換の活性化が図れた。
保護者説明会の企画と実施	B	5月と3月に、目的に応じた形で保護者説明会を実施。特進クラスだけでなく、アップクラスの保護者の参加数が増えるようにしたい。

分掌名（ 中学１年 ）

分掌目標	・ 学校生活の充実に向けた，基本的生活習慣および学習習慣の定着 ・ 保護者との連携による，生徒の自学自習力の育成	
重 点 課 題	評 価	成 果 と 課 題
１．充実した学校生活の実践に向けた生徒指導の確立	A	学年が一堂に会する機会を通して、また、必要な場合は学年集会を開き、いろいろな問題に対しての生徒への注意・喚起・啓発を行うと共に、考えさせた。
２．家庭学習の習慣付けに向けた取り組み	B	長期休暇中の宿題・課題については、学年で把握するために調整を行ったが、日々の宿題については学年としてまとめることができなかった。
３．基礎学力の育成と定着に向けた，学習指導面への取り組み	B	国語・数学・英語の早朝テストを曜日に振り分けて実施すると共に、補習を実施していただいた。
４．学力推移調査の結果分析と，学習指導面へのフィードバック	B	学力推移調査対策としての過去問対策を行うと共に、本試験の結果分析会で生徒の現状把握を行った。一方、指導面へのフィードバックは教科まかせになった。
５．校外学習，勉強合宿，スキー実習等の行事企画と適切な運営	A	宿泊行事である勉強合宿・スキー実習の企画と実施、また、校外学習の企画と実施を、学年団の先生方の協力のもとに実施することができた。
６．学年の２クラス間における横の連携，および情報の共有による学年運営	A	組担任・授業担当者から出てきた個々の生徒の現状を把握し、早期対応に活かすと共に、学年団での共有に努めた。
７．学年と各部署(生活指導、進路指導、入試対策、各教科)との連携，および情報の共有	B	各分掌の学年係りの先生を中心に、各部署と学年間の情報共有に努めた。学年に係りの先生がおられない部署については、連携が取りにくかった。
８．保護者説明会，三者懇談，授業参観，学級懇親会等を通じた，学校と保護者との密な連携	A	担任・副担任を中心に、電話や面談を通して保護者と連絡を取り合い、生徒指導に活かした。

③コース

分掌名(6 ヶ年・特進)

分掌目標	中高6年間を通じて生徒が将来の自己像を描きつつ、自律的学習者となれるよう指導を行う。各学年の学力向上策の促進、提案を行う。		
	重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
	コース再編 平成31年度の特進コースとパワーコースの合体にむけた取り組み	B	特進コースとパワーコースの合体に向けての、I類・II類への進級基準等はまだ作成できていないが、特進、パワー、英数の主任間の連携は出来ていた。
	六ヶ年での補講習プランの検討 中1から高3まで6ヶ年での補講習プランをシステム化。特に高校の通年補講習において他コースとの連携・協力を図る。	C	高校の通年補講習講習のシステム化は教科担当者が多くのクラスで指導があり、全てのクラスの補講習講習が出来なかったりなどの問題がある。
	行事・企画 学校の行事と6ヶ年一貫コースの行事の精査・改善	C	6ヶ年一貫コースの行事のについて、今年度は特に新しい取り組みはなかったが、次年度には大学見学会などの新しい行事の計画が出来た。
	キャリア教育 中学校総合学習の充実と高校進路学習の充実	C	キャリア教育の充実は本校の喫緊の課題であるが、本年度は特別な取り組みが出来なかった。次年度の進路学習には職業体験などを取り入れたい。
	大学入試改革・「新テスト」の情報収集と対策 大学入試改革・「新テスト」に対応する為の情報収集と対策を協議する。	B	大学入試改革・「新テスト」に対応する為の情報収集は出来たが、対策については、「新テスト」の内容がまだ不鮮明な面もあり十分には出来なかった。
	各学年の学力向上策の促進、提案 各学年・各コースにおける学力向上策を協議。	B	今年度の高校1年6ヶ年一貫コースはベネッセのClassiを導入し、生徒の自学自習を促すようにした。来年度も6ヶ年一貫コース1・2年生で積極的に取り組ませたい。
	生徒満足度の向上 生徒満足度が学校全体に比べてやや低い原因を分析、向上策を協議	C	生徒満足度が学校全体に比べてやや低い原因を分析することは出来なかったが。

分掌名（進路指導部高大連携係（プレップコース））

分掌目標	○生徒の現状に即した連携・指定校推薦のシステムの企画運営。 ○学力を中心とした生徒の総合力を伸ばすための具体的施策を行う。 ○推薦入試にとらわれない新しいプレップコースのあり方を考える。		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
連携・指定校推薦入試枠にとらわれない新しいプレップコースのあり方について研究する		B	学年での目標に合わせた方向性を模索できた
生徒の現状に即したパスポート項目および基準の検討		B	出席日数やクラブ活動での見直しが議論に上がっている
生徒の現状に即した連携・指定校制推薦入試の最終選考方法の検討を継続する		C	検討はしていない
プレップ科の授業内容の工夫。とりわけ高3の2学期と高2の3学期のカリキュラムに新しい工夫を導入する		C	新しい工夫はできていない
大学見学会の企画・運営		A	例年通り、充実した内容で実施できた
連携大学との良好な関係維持のための新たな工夫。未来型の連携の形を研究する		B	新しい提言が大学側からもなされている
生徒に対するプレップの内容の周知・徹底 3年間のビジョンを明確にさせる		A	1年での説明会のほか、プレップ会議や生徒個々の疑問に答えることができています
教員に対するプレップの内容の周知・徹底		A	各学年プレップ会議において、機会があるごとに確認している
プレップコース生徒の具体的学力増進策を講じ、成果につなげる		B	模試においてデジタルサービスの活用を提言している
家庭学習・自主学習できる生徒にするための具体的方策を講じる		C	方策は講じられていない
学校全体に対して、プレップコースを理解してもらうための適切な情報発信を定期的に行う		C	情報発信はできていない

分掌名 (英 数)

分掌目標	各学年の生徒に応じた学習指導を実施する。 国公立大学への合格者をふやす。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
学力向上に向けての指導の徹底	A	国公立大学の合格者は8人，関関同立の合格者は17人であった。(実人数)	
講習の充実	A	放課後および長期休暇前に各学年で講習を立案し，効果的に実施することができた。特に3年はセンター試験対策演習を数多く行った。	
模擬試験の分析 生徒個々にまちがった箇所を確認させる	B	生徒に模擬試験後の見直しや復習をさせ，やりっぱなしにならないよう徹底させた。	
大学見学会の実施	A	1年生で大阪市立大学の見学会を計画し，実施した。生徒に書かせた感想を見ると，印象はよかったようである。	
二年次からのコース選択（1年）	A	各生徒のコース選択を生徒と共に考えた。おおむね満足しているようである。	
個人面談の充実	B	二者面談や三者面談を行い，生徒個人の把握に努めた。次年度はもう少し回数を増やしていきたい。	
情報の共有化	B	週一回英数コースの会議を行って情報の共有化を図った。他学年のこともある程度わかったように思う。	

分掌名(パワーコース)

分掌目標	東京大学・京都大学・大阪大学・神戸大学などの難関国立大学への進学																																														
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題																																													
コースにおける諸問題を解決して、教育環境のソフト面を改善する。 (5 中期的目標 b 教育環境と組織運営(6))	A	教育環境のソフト面を ICT とアクティブラーニングと捉えると本年度は高 1 クラスモニターが設置され、高 2 高 3 クラスでは、希望者ではあるが、スタディアプリを活用することができた。 来年度は高 1・2 クラスで、モニターを導入する予定である。 また、高 1・2 ではクラッシーを活用し、高 3 希望者にはスタディサプリを活用した指導を行う予定である。																																													
コースが考案する補講習のプランと、実際に教科がおこなう補講習がマッチングし、より合理的に進行する形を求める。 (5 中期的目標 b 教育環境と組織運営(7))	A	高 2・3 では従来型の全員参加の講習を、高 1 では、希望制講習を充実させた。 以前のように、5 教科の担当者がコース会議に出席するわけでないので、教科とコースのコミュニケーションのとり方を考えなければならない。																																													
補講習プランに基づき、当該教科は補講習を通年で実施する。 (5 中期的目標 c 生徒の学力・進学面の目標(6))	A	高 2・3 では従来型の全員参加の講習を、高 1 では、希望制講習を充実させた。																																													
進研模試の平均偏差値が、1 学期から 3 学期にかけて 1～2 ポイントアップするような方策の立案に着手する。 (5 中期的目標 c 生徒の学力・進学面の目標(3))	C	1 学期 → 3 学期 高 1 55.0(進研 7 月) → 55.0(進研 1 月) 高 2 59.4(進研 7 月) → 60.0(進研 2 月マ-ク) 高 3 56.2(進研 6 月マ-ク) → 54.8(進研 9 月マ-ク) 偏差値の維持で精一杯である。 進研模試の平均偏差値が、1 学期から 3 学期にかけて 1～2 ポイントアップすることで最終目標を達成に近づくとは考えられない。 学校目標を再考すべきである。																																													
3 年後には国公立型コースから、東京・京都・大阪・神戸大学に合計 10 名以上、大阪市立・大阪府立大学に合計 10 名以上、また、国公立大学合格者合計 50 名以上の合格者を継続に維持できるような指導体制を作る。 (5 中期的目標 c 生徒の学力・進学面の目標(3))	C	<table><tr><td></td><td>29</td><td>28</td><td>27</td></tr><tr><td></td><td>現</td><td>浪</td><td>現</td><td>浪</td></tr><tr><td>東京</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>京都</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>大阪</td><td>1</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>神戸</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>市立</td><td>2</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>府立</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>国公立</td><td>11</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table> 管理職が主導して指導体制を作っていたきたい。もしくは学校目標を再考するべきである。			29	28	27		現	浪	現	浪	東京	0	0			京都	0	0			大阪	1	0			神戸	0	0			市立	2	0			府立	0	0			国公立	11	2		
	29	28	27																																												
	現	浪	現	浪																																											
東京	0	0																																													
京都	0	0																																													
大阪	1	0																																													
神戸	0	0																																													
市立	2	0																																													
府立	0	0																																													
国公立	11	2																																													
平成 31 年度の特進コースとパワーコースの合体に向けての取り組みを行う。 (6 今年度の目標 b 学校の教育環境と組織運営(8))	D	コース主任会議は行われたが、何も決まらなかった。 保護者・生徒の心情を考慮に入れると 2 年生までのコース体制を大きく変えるべきではない。 特進・パワーコースの行事を勉学旅行も含めて合同で行うこと、2 年次からの合体を目指すべきである。																																													

担当教員が共通認識を持って、各教科および各コースが作成した教育プランおよびシラバスに沿って、教科指導および生徒指導を実施する。教育プランおよびシラバスは学年末に改正し、次年度に備える。 (6 今年度の目標 b 学校の教育環境と組織運営 (10))	D	担当教員が共通認識を持っているとは言い難い。また学年末に教育プランおよびシラバスを改正し、次年度に備えているように思えない。 教育プランとシラバスを生徒の学力状況を勘案しながら、教科だけでなく各コースで検討できるような体制を構築していただきたい。
進路指導部と各コースが緊密に連携して、情報共有をスムーズに行い、一本化できる教育活動を協力して行う。 (6 今年度の目標 b 学校の教育環境と組織運営 (17))	D	今年度、大学合格者のデータや模擬試験のデータの提供は一切なかった。緊密に連携しているとは言い難い。 進路指導部の持っているデータを、逐次コースに提供していただきたい。
高度なテキストを使用する。 (H30 年度入試説明会より)	A	他コースとは違う教科書・副教材を使用し、各教科担当者が工夫をして、日々の授業を進めている。勉学旅行事前学習でも関連教材を用いて指導している。 今後も継続して取り組んでいきたい。
密度の高いカリキュラムを策定する。 (H30 年度入試説明会より)	C	カリキュラムに変更なし。 特進・英数・パワーともカリキュラムが同じでコースの特徴が表れていない。 行事を工夫し、授業時間を最大限確保したい。 カリキュラムを見直し、標準単位で密度の高い授業を目指したい。
自立した学習者を育成する。 (H30 年度入試説明会より)	B	各学年とも希望制講習を実施。コース独自の進路学習を通じて意識を高めている。 クラッシー・スタディサプリを活用して、自立した学習者の育成を目指す。

④進路指導

分掌名（ 進路指導部 ）

分掌目標	生徒個々の学力向上と進路実現をサポートし生徒満足度を上げる。同時に国公立大学・関関同立等難関大学への合格実績の積み上げを図る。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
各コースと連携して「進学実績」向上のための具体的施策を行う。とりわけ、国公立大学・関関同立の合格者を増やす施策を考え実行する。	C	進路説明会で国公立大学入試に関する動向等、とりわけ推薦入試について詳しい情報を提供したり、資料コーナーの整備を進めたりした。しかし、2018 年度入試は情報提供するだけでなく、教科の学力を上げる直接的な取り組みが根本的に大事であると思われる。
生徒や保護者対象「進路説明会」を洗練させ、生徒のやる気に更に働きかける。チーム制を導入するなど、複数の視点でコンテンツを充実させる。効果的で評価の高い新しい進路説明会を創造する。	B	進路説明会の内容は、回を重ねる過程でより良いものになるよう工夫した。ただし、進学意識が希薄な高1 生徒対象の説明会を工夫する必要があると感じた。説明会のチーム制は実現できなかった。学年との連携が不十分な学年もあった。
効果的な「分析会」の定期的開催と教科会・学年会で検討材料となる資料提供を推進する。主な分析対象は「スタディーサポート」および「模擬試験」。学力増進策なども提案する。	C	第1 学期に高1・高2 の「スタディーサポート」分析会を実施することができた。しかし、これ以上のことはできなかった。上記分析会で、学力増進策を提案したが、それを受けての顕著な動きは見えなかった。
プレップ・一貫プレップコースにおいて、指定校制推薦入試のみに頼らない進学指導を進める。また、プレップ項目の見直しをすすめる。	C	プレップ・一貫プレップコースの連携・指定校制推薦入試合格者が昨年比 1.2 倍（126 人から 154 人）に増えた。背景に私大の入学定員厳格化を見越しての安全策が働いたと思われる。次年度も同傾向が予想される。プレップ項目見直しを次年度本格的に着手する。
「大学合格（準備）講座」の安定的運営を図るとともに、英語に特化した「土曜スペシャル講座」の充実を図る。とりわけ、英語4 技能化に対応した講座の充実を考える。	A	講座運営は4 年目で大枠はできたが生徒の申込数は減っている。次年度は高1 生対象に「基礎講座」を開講する。英語4 技能対策にオンライン英会話講座をスタートさせた。次年度は英検合格講座をさらに充実させる。
ベネッセ・河合塾等の主催する入試等分析会へ積極的し、必要な情報・資料を収集し、本校の先生方に提供する。また、教職員に対して分析会等への参加を促す。	A	可能な限り外部分析会へ参加し、必要な情報・資料を入手し、先生方に提供できた。先生方への案内をまめに行った結果、出席者が少し増えるようになった。
看護・医療系進学希望者に対する情報提供を促進する。	A	「看護師になるためのガイドブック」（高1・高2 生徒用、各担任用）を発刊した。看護系志望者指導に一定のガイドラインを示した。

進路指導部発信の Global 教育・キャリア教育について研究を進める	C	高1の第2学期進路説明会で「マイナビ」の講演を導入したが、さらに検討が必要である。
-------------------------------------	---	---

分掌名（ 進路指導部 進路指導係 ）

分掌目標	生徒が自分の将来に夢や希望を抱き、自分の意思で主体的に進路を選択する能力を育成する。また希望の進路に進めるよう、模擬試験の結果活用や補講習・講座などの充実を図り、学力向上をサポートする。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
中学学力推移調査 ・年２回実施の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	問題なく実施できた
高１（新入生）オリエンテーション ・各教科から資料を取りまとめ配布 ・配布するだけで終わらないように活用	B	配布するだけになった
進路ＬＨＲの内容の見直し ・進路ノートの内容 ・ノート以外の企画（講演会など）	B	十分な内容を実施できなかった
高１校内模試 ・校内模試（年３回）の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	実施はできたが、実施時期・内容についてはさらに検討が必要
高２校内模試 ・校内模試（年３回）の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	
高３校内模試 ・校内模試（年５回）の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	
スタディーサポート ・高１高２、年２回の実施 ・事前学習教材の準備と活用の案内 ・データの活用 ・分析会・結果活用勉強会の設定	B	
外部模試 ・案内と取りまとめ ・データの活用	B	

進路だより ・大学入試情報、大学学部学科情報など生徒保護者に役立つタイムリーな情報の発信	C	発行していない
放課後の補講習 ・放課後の補講習実施のとりまとめ ・学年ごとに一覧表作成、学年・コースに実施が充実していないクラス・科目の改善を要望	C	学年・コースに任せている
講座制授業（夏期講座） ・教員からの開講講座のとりまとめ ・時間割の作成、生徒への要項の配布 ・申し込みの受付・講座ごとの名票作成	C	一部の先生が全てを担当している
ファインシステム ・模擬試験分析ソフト、ファインシステムの管理と各教員が使える環境作り	C	十分に活用できていない
進研模試デジタルサービス ・生徒・教員の活用促進	C	十分に活用できていない

⑤教務

分掌名（ 高校 教務部 ）

分掌目標	学校業務の円滑な運営に寄与しつつ、行事内容の改善、業務内容の改善を計る。	
重点課題	評価	成果と課題
Ⅰ 部長		
①教務に関する事項についての連絡調整及び指導助言	B	今年度は他の係の仕事内容を把握することが大前提であったので、調整できた部分はあるが助言には至らなかったところがある。来年度の課題である。
②教務部会の召集	A	ほぼ毎回開催し、係の先生と共通認識を持てた。
③校務に関する改善案の提言	A	いくつかの改善につながる立案ができた
④入学試験の準備・運営	A	大きな問題もなく対応できた。
⑤教育計画の実施に際しての調整、指導助言	B	調整できた部分はあるが助言には至らなかったところがある。来年度の課題である。
Ⅱ 行事企画運営係		
①行事について情報収集・検討・集約	B	2年目になり全体を見渡せることができた。ただ、相変わらず行事が多く満足できるような状態ではない。
②各行事の企画・運営	B	行事を追いかけるので精一杯。
③各行事についての保護者連絡	A	準備を含め、保護者への連絡は早めの対応ができた。
Ⅲ 修学旅行係		
④各種情報収集・検討	C	旅行社からの一方通行的な面は否めない。
⑤高2学年団への情報伝達・指示	B	学年主任との連絡等を含め、全体的にはスムーズにできた。
⑥高2保護者への内容説明	A	旅行社・学校と共に対応はできている。
⑦現地での交渉・各種準備	A	各隊との連絡もわりとスムーズに熟せたと思う。インフルエンザ等の病人・けが人を把握するのが結構大変である。
⑧次年度に向けての検討	B	特に海外という面もあり、より一層の検討・準備は必要であると強く感じている。
Ⅳ 時間割係		
①新年度時間割作成 授業内容・選択科目・教員の都合等の制限項目が時間割作成に困難さをもたらしている。制限項目の減少に向けて提言を行う。	C	前年度以上に専任・常勤・非常勤の別なく、時間割作成に対する制限が多くあった。次年度に向けて、総務を通じて非常勤の先生方の時間割に余裕ができるようお願いした。
②通常時間割変更 『補欠は罪、振替えは義務』をスローガンに自習授業の撲滅に向けて提言を行う。	B	授業を振替えて出張する習慣は定着してきている。今年度は特に時間割変更が厳しく、昨年度よりも、自習にするしかない授業時間が増えてしまった。

③定期考査時間割作成 教科間に不公平感が出ないように努める。	C	先生方の出勤日の関係で、中間と期末で日程を変更し難い科目が出てしまったために、一部で不公平感が生じてしまった。
④考査監督作成 教員間に不公平感が出ないように努める。 監督の交代は教員間の個人的やりとりで解決する仕組みが浸透してきたため、円滑に遂行できている。	B	専任・常勤の先生方の担当時間数をできるだけそろえた。次年度に向けては、授業担当クラス以外にも監督に行っていただくことを検討したい。 Penta200 を利用して、各先生方の P C から監督表や考査時間割を確認、印刷できるように変更した。
⑤考査問題管理・授受 考査問題提出期限を設け、考査前日に問題提出を確認するため、トラブルは減っている。 先生方の個人的ミスに対しては、その場での指導と啓発活動に励む。	B	7号館が中学校舎になり、高校が本館のみで考査を実施できるようになったことで、高校の答案授受の煩雑さが大幅に減少した。問題の部数不足や白紙の混入などのミスは出ているので注意喚起したい。
⑥行事に伴う時間割変更 消滅する授業が復活する場合にミスが発生しやすい。復活した授業担当者が不満を言うことに対しては、強く指導する。	B	概ね問題なく実施できた。行事に伴う授業の復活については先生方の理解も進んだ上に、事前に発表することで問題は減少した。
⑦時数計算表の作成	B	一部コースの行事が変更されたり、学年集会を実施するために HR の実施日時を変更したりするなどの事案に対応する必要があった。
⑧職員会議・行事時の教員の出欠確認 会議等の理由無き欠席者に対して何らかの措置をとらないのなら、出欠確認は不必要と思われる。	B	前年度同様に職員会議の出欠確認は取っていない。 学校行事や入試などの出欠は厳密に行い、問題はなかった。
⑨欠勤・遅刻等の届けの確認 欠勤・出張等について、常習的に届け出ノートに記載しない、電話連絡が遅い等の教員に対しては強く指導する。	B	教務で把握しているものと事務で把握しているものとの間に、一部違いが生じていた。
V 書類帳簿・教科書係		
①教務日誌 教務日誌は漏れののないよう万全を期す。	A	前年度の反省点を改善し、Web 上で処理するようにした。
②掲示物 各種掲示物の整理整頓を期す。	A	問題ありません。
③調査書・成績証明書等の発行	A	問題ありません。
④各種書類の作成・発注・管理	A	問題ありません。
⑤指導要録作成補助	A	問題ありません。
⑥教科書・副教材の採択指示・点検 教科主任と担当者での二重のチェック体制を取り、万全を期す。	B	数学科で3回のミスあり。

⑥教科書・副教材の採択報告・発注・管理	A	問題ありません。
⑦入試資料の作成	A	教務部長にお任せしました。
VI庶務・内規係		
①教室配当の決定	B	何とか間に合っている。
②教員配置の決定	B	何とか間に合っている。
③パーソナルロッカー搬入・設置・廃棄手配 生徒のパーソナルロッカーについて、事務局 に指示する。	B	高3学年と事務局との連携で実施された。 高1・2年は事務局との連携で実施して いる。
④破損届受付及びその修理依頼	B	捺印している。
⑤消耗品の補充	A	頻繁に補充している。
⑥教職員に対して、内規の周知・徹底	B	新任研修会で説明し、徹底している。
⑦特別指導実施報告書の周知	B	新任研修会で説明し、徹底している。
⑧内規の生徒への周知・徹底	B	新入生オリエンテーションで説明している。
VIIカリキュラム		
①保護者対象説明会にて解説	B	高1、第一回保説で説明・徹底している。
②新任教員へ説明	B	
③今後のカリキュラムの検討		管理職・教科主任参加のカリキュラム会議が ない。
④教科単位数の点検	B	書類帳簿係と連携し、実施している。
VIII学校評価		
①業者（東京）との連携	C	個人のメールアドレスでの連絡は問題あり。 大阪の業者であれば連絡などの問題はない。
②生徒・保護者・教員アンケートの実施	B	事務局との連携で実現している。
③授業評価について	C	授業担当データをわずか二名で作成するの は無理がある。
IX保護者会係		
①保護者会に関する事務	A	滞りなく対処できた
②各組学級委員の募集補助・各種連絡	A	〃
Xその他		
①インターンシップ学生受入れ手続き・運営	A	インターンシップ学生の応募が無かった
②各種印刷物の作成・配布	A	滞りなく対処できた
③芸術鑑賞会の立案・外部との交渉	A	生徒・保護者にも好評であったと思う

分掌名（ 中学教務部 ）

分掌目標	上宮学園中学への校名変更にもない、新しい全人教育における生徒の人間力の向上に繋がる行事等の計画と実践。 新たなにスタートする6年間一貫教育の見直しと生徒の学力向上のための方策の計画と実践。		
重 点 課 題		評価	成 果 と 課 題
日々の行事の運営 行事の計画と実行・改善（来年度も視野に入れる） （各式典、体育大会、文化祭、合宿など） 中学から高校へスムーズに進学できるための方策の検討		B	概ね当初の予定通り行事の運営は行えたと思う。ただ、中学から高校への進学は今年もスムーズとはいいがたく、今後の検討課題である。
教務係との業務の連携、運営 行事企画運営（日々の行事の確認、各行事の企画・整理、） 時間割（日々の時間割の変更・補欠の確認、考査に関する事項の確認、考査監督表の作成、問題の管理と答案の授受） カリキュラム（現行のカリキュラムの改善点、次年度以降の考察、総合学習の検討） 書類帳簿（教育委員会提出用書類作成、教科書類のとりまとめと発注、転学生徒用書類の作成、教務日誌の作成、指導要録の作成指導、書類帳簿備品の整備、評価・評定の記入依頼） 庶務（物品物・消耗品関係の点検、各教室備品関係の点検、各教室の配置、職員室の配置の検討）		A	教務係りの先生方との業務の連携、運営はしっかりできたと思う。
教員間の情報の共有・連携 （生徒の事故、トラブルの把握、対処、防止）（成績面での現状の認識、問題点の共通認識、改善策の考察）		A	中学の職員室内や生活指導部、主任 会を通じて、教員間の情報の共有・連携はスムーズであったと思う。
中高教務の連携（日々の業務の情報の共有化、問題点の共通認識、解決策の模索） 特に今年度から中学が7号館に移転したため、よりきめ細かい連携が必要となる		B	日々の業務の共有は、今年は去年より りは連絡が密に出来たと思う。 ただ、まだ100%ではなかったの で、今後改善していきたい。
会議や連絡会について （伝達内容の確認、懸案事項の点検、考察）		B	概ね、よかったと思う。懸案事項については検討事項である。

教務会の円滑な進行について (教務としての意見の取りまとめ、検討事項の考察→決定事項の報告)	A	概ね、円滑に行えたと思う。先生方も積極的に意見を述べてくれた。
上宮学園中学校について 来年度より太子中学校との統合に伴い新しい学校として生まれ変わることを強く認識し、新しい学校として、コースの目標の明確化、中学校での新たな取り組みの具体化(魅力ある生徒の育成)(進路学習の充実)(ネイティブとの連携と英語教育の充実)(英検の学年による目標の達成)(読書指導の充実)(早朝、放課後テスト、補講習の充実)(数学力をアップするための方策の検討)	B	今年も教頭先生を中心にコース再編の目標は明確化できたが、具体的な取り組みに関しては、これからも検討していかなければならない。
六ヵ年を見据えた教育の充実	B	まだ、まだ検討しなければならない課題ある。
上宮学園中学校における校外学習および総合学習の充実と積極的な取り組み (進路学習、社会・音楽・美術関係を含む)	B	学年を中心に概ね、取り組めたと思う
上宮学園中学校における中学入試の実施と入試実施に関する諸問題の検討 (体験学習会・模擬テストを含む)	B	体験入試と模擬テストを2日に分けたり、2次入試の日程の変更などを概ね、できたと思う。ただ、課題は入試日程などいくつかあると思う。
保護者会との協力	A	概ね、保護者会の連絡等、協力的にできたと思う。
部活動面の充実に繋がる取り組み(クラブの再編や中1の入部時期など)	B	部活動は充実しているが、クラブの再編などの課題解決はできなかった。

⑥生活指導

分掌名（生活指導部）

分掌目標	生徒のためになる指導		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
生活指導マニュアルの実践 本校全職員による統一された指導の実践	B	マニュアルを見直し、次年度以降も時代に合った指導を考えていかなければならない。 また、教員の統一した指導は、なかなかそこまでできていない。先生方にも協力をお願いしていかなければならない。	
重点指導課題 頭髪（奇抜な形）・服装（シャツ・化粧） 遅刻（5分前行動）・携帯（校内使用） 考査規定の遵守（不正行為）	B	頭髪等の指導はできるだけ担任の先生が中心となり、確認してもらう様にこれからもしていきたい。また、化粧、遅刻、携帯指導などは、どのようにすれば、違反しないのか、生徒の立場に立ち、指導方法を考えていかなければならない。	
生活指導部の役割の明確化 担任および学年中心の指導体制構築 生活指導部は指導の助言とサポート	C	中学は学年中心の指導が確立しつつあるが、高校はどうしても、生活指導部中心の指導となってしまう。担任の先生は協力していただけるが、生活指導部に丸投げされるところがまだまだある。	
SNSをはじめとするトラブルへの対応 SNSに関するトラブルや問題行動への啓発活動や指導	B	SNS等でのトラブルは大きなものではなく、細かな部分ではまだまだたくさん起こっている。これからも啓発活動を続けると同時に、次年度はネットパトロールを導入するにあたり、それを有効に利用していきたい。	

⑦入試対策

(入試対策部)

分掌目標	上宮学園中学校、上宮高等学校とも安定した生徒募集をする。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 中学体験学習会・プレテスト会の円滑な運営と見直し	B	体験学習会は例年通り実施。プレテストは、午前教科型、午後適性型を実施。今後、プレテストの回数を増やしていったほうが良いと考える。	
② 入試説明会の日程、内容の吟味とプレゼンテーションのあり方についての研究	B	説明会の日程に関しては、他校とのバッティングを避けるように設定。プレゼンテーションのあり方に関しては、外部説明会においても、出来るだけコンピューターを利用し、パワーポイントでの説明を心がけた。その中でも動画の利用を増やし、メッセージ力を強くした。	
③ 塾対象説明会についての検討	B	例年、7月に実施していたが、実際に塾の先生方が進路指導を始める9月に時期を変更した。	
④ 塾・中学校訪問を中心としたより効果的なアプローチの研究	B	中学校訪問に関しては、春と進路指導の始まる秋に実施した。塾訪問は、随時実施、説明会等の案内、また、説明会参加者が受験するように、広報した。	
⑤ 中学入試の日程等に関する提案（教科型・適性型）	B	教科型、適性型を時間をずらして実施したが、次年度以降はどちらも初日の午前に実施するのが望ましいのではないだろうか。	
⑥ 高校入試（インフル対応）に関する日程、方法の提案	B	今年度は、国語、数学、英語の3教科で実施。5教科での実施が今後の検討課題である。	
⑦ 中学校、高等学校ともに幅広く受験してもらうための方策を考える	B	色々な、場面・場所での広報活動を実施した。今後さらに広げたい。	
⑧ 部署内の情報の共有化を図る	A	ホワイトボードを設置し、出来るだけタイムリーに情報を共有できるように努力した。	
⑨ 上宮太子入試対策部との必要な情報の共有化を図る	B	お互いにそれぞれの学校見学会を実施し、学園中学校の広報の為に必要な情報を共有した。	

⑧保健管理

分掌名（保健管理 2017年度）

分掌目標	心身の健康を保持増進させ、問題を抱え込まない環境作り		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
1. 生徒の定期・臨時の健康診断の計画及び実施	B	各分掌と連携をとり、協同して計画通りに実施することができた。	
2. 教職員の健康診断の計画及び実施	B	各分掌と連携をとり、計画通りに行うことができた。 今後も受診率の高さを維持できるようにしていきたい。	
3. 心疾患・アレルギーなど身体的配慮を要する生徒及び、配慮・支援を要する生徒への対応	B	保健調査票、宿泊行事前の事前アンケートからの情報を、担任、学年と共有することができた。特に中学1年については、早い段階で学年団への情報提供ができた。	
4. 学校管理下における救急処置及びAEDの管理	B	生徒の救急処置数は、内科2,655、外科1820、相談634件で、昨年度より減少している。今後も、正確で速やかに処置を行うことを目指す。	
5. 性教育を含めた保健指導	B	「いのちの教育」は、講演途中、生徒の受講態度が悪いと指摘があった。 性は生である認識を生徒に持ってもらえるよう企画を考えたい。	
6. 疾病及び感染症の予防	C	疾病予防や感染症対策が不十分であった。 今後、多様な方法で啓蒙できるよう検討していく。	
7. 宿泊を伴う学校行事における生徒の事前指導、関係機関への連絡、及び引率	B	年々保護者からの問い合わせが多く、きめ細かい事前の打ち合わせが必要となってきた。 海外への修学旅行の準備は、業者との打ち合わせも頻回となった。諸事故を防ぐためにももれのないようにしていきたい。	
8. 学校環境衛生の管理	C	校内の環境衛生の調査などができなかった。 今後、学校薬剤師の指導を受け、点検・管理について、検討していきたい。	
9. 日本スポーツ振興センター事務手続き	B	学校災害給付金の内訳は、中学358,935円、高校4,590,178円であった。昨年度より、給付金額は増加している。今後も、請求・給付を迅速に行いたい。	

⑨教育相談

分掌名 (教育相談 2017 年度)

分掌目標	個々人のスキルアップ及び支援体制の確立を目指す。		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
①相談業務 ・生徒・保護者へのカウンセリング ・教員へのコンサルテーション ・メールによる関係づくり ・学校への不適応を呈している生徒の把握(案) →欠席日数のチェック	A B	○カウンセリングやコンサルテーションするに当たって、更なる研修・研究を必要とし、それらを実施していく方向である。 ○不登校状態を呈している生徒の把握(案)に関しては、担任・教務との連携を今後考え、実施していく方向である。	
②学校に行きづらい子どもの「親の集い」	A	○保護者の心理的安定に伴い、保護者の子どもを支援するスキルの獲得が進んでいる。	
③発達の違いを持つ子どもの「親の会」	A	○保護者同士の交流が深まり、子どもを支援するための情報交換が進んでいる。また今年度は当事者及びアドバイザーにも参加してもらい、充実した会を持てた。	
④保護者・教職員のための勉強会	A	○外部講師から青少年の自立をテーマに研修を実施し、概ね好評であった。	
⑤教育相談係 HP の活用	D	○新しい学校の HP が開設されたことで、今まであった「教育相談」が無くなった。来年度に向けて HP 上に「教育相談」を入れることの要望を続けたい。	
⑥広報 ・教職員向け…カンファレンス、「親の集い」、「親の勉強会」「保護者・教職員のための勉強会」といった係活動の認知 ・保護者向け…「親の集い」、「親の勉強会」「保護者・教職員のための勉強会」といった係活動の認知 ・生徒向け…オリエンテーション時における係活動の認知 ・外部向け(案)…「保護者・教職員のための勉強会」の案内を塾を介して上宮に関心のある保護者への伝達及び近隣の公立小・中学校を介して保護者への伝達	A A	○教職員向けは職員会議での連絡、保護者向けでは紙媒体だけでなくメール配信により広報ができた。 ○外部向けの「保護者・教職員のための勉強会」の広報は、入試対策部と連携し、近隣の中学校に通う保護者へ行った。その結果、4校の学校から数名の保護者が参加された。今後、小学校にも広報の範囲を広げたい。	
⑦外部機関(医療、外部相談所など)との連携	A	○面接で医療が必要と思われた方々を連携する医療機関につなげることができた。	

⑧保護者会との連携 ・保護者のニーズに応えられる講演テーマであれば「保護者・教職員のための勉強会」での連携が可能	D	○今年度は保護者会と連携が取れなかった。
⑨保健管理部門との連携 ・事例の共有化 ・学校精神保健への協働	B	○保健室から1人、係に配属され事例の共有化が進んでいる。今後、さらに学校精神保健の充実に努めたい。
⑩学年会との連携 ・情報の収集 ・不登校や発達の違いのある生徒の担当者会議の実施 ・支援シートの作成	A A	○不登校や発達の偏りのある生徒を持つ担任との連携は進んでいる。また学年団と連携をし、担当者会議の実施も進んでいる。 ○今年度は12名の支援シートの作成を行った。今後は来年度からできる「特別支援教育コーディネーター」に移行させる。
⑪「不登校を考える会」会報の配布	A	○配布する他、配布した際、教職員から生徒・保護者に関する種々の情報を入手でき、活動に役立てることができた。
⑫大阪私学カウンセリング研究会の業務	A	○平成25年度から29年度とカウンセリング研究会の当番校を担った。現在の人員、授業時間の多さから業務が滞るところがあるのが現状。 ○本校から大阪私学全体へ研究会の情報を発信し、さらに充実した研究会を目指すようにしたい。

⑩データ処理

分掌名（ データ処理室 ）

分掌目標	データ処理業務の遂行 入力システムの安定を処理速度の向上 学校業務効率化のためのプログラム開発		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
入力システム等のプログラムを更新して使いやすさの向上を目指す	A	システムのバージョンアップができた。	
調査書発行システムのプログラムの大幅な変更	A	調査書出力の大幅な変更ができ、問題なく作動している。	
入試業務の遂行 (来年度から web 出願になるため、事前の準備シミュレーションを念入りにする)	A	問題なく終了。 来年度へ向けての課題も見つかる。	
体験学習、プレテスト (本年度から web 申し込みになるため、事前の準備シミュレーションを念入りにする)	A	問題なく終了。 来年度へ向けての課題も見つかる。	
通知表を含む考査データ等の担任への配布	A	問題なく終了。	

⑪生徒会

分掌名（ 生徒会 ）

分掌目標	学校行事・生徒会業務の内容と効率の見直し。 教員間の連携がさらに取れるようにする。	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
生徒会予算の健全化	A	前年度よりも予算の使用状況の改善ができた。
クラブ活動についての問題点の洗い出し	B	教員数の減少による指導者数については少し進展があった。活動内容には踏み込めていない。
体育大会の運営の体系化	B	種目の見直し、運営のやり方を多少なりとも見直すことが出来た。次年度へ向けての進める事が出来た。さらに円滑にかつ、安全に実施していきたい。
文化祭の運営の体系化	B	FAQの作成配布により例年通よりは、担任教諭の規範統一が出来た。さらに内容を吟味し生徒も含め、意識を高めていきたい。
その他生徒会管轄の業務・行事の見直し	B	クラブ予算の早期給付ができるようになった。次年度は4月中に振込める見込み。 朝の挨拶運動は生徒からの要望もなく今年度も辞ししなかったが、生徒会の存在意義を考えると、あってもいいかと思われる。

⑫人権教育

分掌名（ 人権教育 ）

分掌目標	共に育む人権（お互いを思いやる気持ちを大事し、共にいたわり、痛みを分かち合いながら歩もう）		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
中学校1年人権教育LHRについて 入学時「いじめ」についてのアンケート実施 2・3学期に「いじめ」アンケート実施	A	担当・学年の協力を得てほぼ予定通り実施、PENTA200の人権ホルダーにて報告。事情により一部「いじめ」アンケートが未実施	
中学校2年人権教育LHRについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の協力を得てほぼ予定通り実施、PENTA200の人権ホルダーにて報告。事情により一部「いじめ」アンケートが未実施	
中学校3年人権教育LHRについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の協力を得てほぼ予定通り実施、PENTA200の人権ホルダーにて報告。事情により一部「いじめ」アンケートが未実施	
高校1年人権教育LHRについて 入学時「いじめ」についてのアンケート実施 2・3学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の協力を得て予定通り実施。PENTA200の人権ホルダーにて報告。一部「いじめ」アンケートが未実施。2月の視聴覚教材を変更。	
高校2年人権教育LHRについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の協力を得て予定通り実施。PENTA200の人権ホルダーにて報告。一部「いじめ」アンケートが未実施。11月分を12月のセクハラ講演会に変更。	
高校3年人権教育LHRについて 1・2学期に「いじめ」アンケート実施	A	担当・学年の協力を得て予定通り実施。PENTA200の人権ホルダーにて報告。一部「いじめ」アンケートが未実施。	
私学人研 第4部会 について 年度末研究発表 本校の当番で松野が発表	A	『哲学的にみた人権と道徳——人権教育の諸問題』のテーマで本校の人権教育の現状や課題などをまとめる。かなり準備に時間を要す。	
年2回の人権教育教職員研修について（5月） （講師：藤井良美さん） （内容：『子どもたちの困り感と保護者のニーズ——学習障害について考える』）	A	教育相談係と共催で、昨今増加している学習障害の問題を、専門家から話していただく。7月の推進会議でも「部落差別解消法」「起立性調節障害」と不登校」のテーマで係が講演を報告。	
年2回の人権教育教職員研修について（10月） （講師：梶田叡一氏） （内容：『命の教育——教育課程の改革』）	B	中教審の副会長や数校の大学の学長も務められた経験豊富な講師から貴重な話を伺うことが出来た。教員の出席がやや少なかった。	

⑬図書・視聴覚教育

分掌名（図書館・視聴覚教育係）

分掌目標	貸出し冊数を増やす 教室に入れない生徒の教室復帰に協力する	
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題
女生徒のニーズを捉えて貸出し冊数の増加を図る。	B	順調に女生徒の利用度が増加している。選書や赤本でも、女生徒を意識した成果が出たといえる。
高校3年生の参考書・問題集の貸出冊数の増加を図る。	B	この数年、女子大学・看護関連大学など、女生徒の希望にそった本を購入したのが成果が出た。
7号館の中学生の利用・貸出増加を図る。	C	特に昼の休憩に中学生が来れないことが影響が大きい。貸出、利用がだめである。
教室に入れない高校生の教室復帰に協力する。	B	担任・生徒相談。図書館の三位一体の協力体制が必要だが、特に成功不成功を分けるのは、担任の意識の高低にある。担任がきめ細やか が指導が有れば、成功する。
教室に入れない中学生の教室復帰に協力する。	B	担任・生徒相談。図書館の三位一体の協力体制が必要だが、特に成功不成功を分けるのは、担任の意識の高低にある。担任がきめ細やか が指導が有れば、成功する。
中学生の利用・貸出しの増加を図る。	C	特に昼の休憩に中学生が来れないことが影響の大きい。貸出、利用がだめである。図書館と中学校舎が離れていては不可能と言わざるを得ない。
中学生の朝読に協力する。	B	中学用に朝読図書を購入したが、その成果が知らない。伝わってこないし、どのようなやり方をしているのかも不明である。
中学生にとってよい図書館としての環境の整備を図る。	C	特に図書館と中学校舎が離れていては不可能と言わざるを得ない。新校舎建設後の問題と言える。
中高生の図書館マイレージの参加を積極的に呼びかける。	C	特に図書館と中学校舎が離れていては不可能と言わざるを得ない。新校舎建設後の問題と言える。

分掌名（◎視聴覚・視聴覚教育係）

評 価 項 目	評価	課 題
快適度 設備・TV モニター・プロジェクター・ スクリーン・他の音響設備・映像・ 音響機器・冷暖房	A	機器の操作が、黒板前に統一されたのが良かった。 また、機器の使用方法のマニュアルを作り替えたので、判りやすくなった。
安全度 耐震 防火設備	B	変化なし。
教室の机・椅子・カーペット・	B	カーペットはかなり傷んできている。机・椅子は綺麗に使用しているようである。めだった痛みはない。
準備室の利用状況	B	まだ、授業中、映像を見せながら、自分は準備室に入る先生がいるようだ。そのため、ネジを緩めるといったいたずらがなくなる。
附属アナウンス室は放送部の部室となったので、利用状態は顧問に任すしかない。	C	附属アナウンス室は放送部の部室となったので、不祥事があった。危惧した通りであった。
所蔵資料（ビデオ・DVD・ブルーレイ）の利用状況	C	予算の関係で、視聴覚としての映像資料は買っていない。
終業点検の当番の実施 図書館・視聴覚教育係の全員で、視聴覚教室の一週間交代で当番を行い、チェックしている。	A	図書館・視聴覚教育係先生方により、一週間ごとの継続で実施している。継続的なチェックで効果が出ている。
職員会議などの校内での利用状況	B	職員会議などでよく利用されている。しかし、最後の鍵の開いたまま、使用中のランプが点いたままなことが多いのは遺憾である。
他校教員を交えての外部団体の会議などの利用状況	B	従来の変わらないくらいに多い。使用状況は良いと考えている。
授業以外の生徒の利用状況	B	クラブ関連の使用が多い。部顧問が注意しているのか、使用状況は良い。

⑭広報戦略

分掌名（広報戦略係）

分掌目標	安定した生徒募集につながる、幅広いフィールドでの広報企画を立案する		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
① 「学校案内」（ポスターを含む）等冊子の作成について	B	今までにないインパクトの強い「学校案内」や「ポスター」ができたと思う。	
② ホームページの活用および効果的なアプリの研究	B	ホームページをリニューアルできたが、クラブ活動のページなど、まだまだ課題がある。	
③ 中学体験学習会・プレテスト会の案内チラシについての研究	B	斬新なデザインのチラシが出来上がり、体験学習会とプレテスト会のつながりをも考えさせるものである。	
④ 他校にない広報企画の立案（フェイスブック、Instagramなどのデジタル広報）	C	上宮アプリも含めて、ほとんどできなかった。	
⑤ 新しい広報ツールについて考える	C	新しい広報ツールに考えて検討はしたが、具体的などころまでには至らなかった。	

⑮ I D

分掌名 (I D 係)

分掌目標	I C T教材の作成とA L実施に向けての情報収集と実践を行う 教員間での情報の共有を行う		
重 点 課 題	評価	成 果 と 課 題	
I C T授業を実施する際のハード面での情報収集を行う。	A	展示会等に積極的に参加するとともに、各業者の担当者から情報を得た。	
I C T教材の作成についての情報収集と実践を行う。	B	ロイロノート等の授業支援アプリの情報を収集するとともに、担当者とも打ち合わせを行った。	
I C T教材への簡単な移行の可能性を探る。	A	7号館にプロジェクターを設置するとともに、有線・無線でのI C T授業のフォーマットは出来た。	
A L実施に向けて実践研究を行う。	A	色々なタイプのA L授業の研究・実践を行った。	
I C T教材の作成等の情報の教員間での共有を行う。	B	各授業者は、それぞれ研究・実践を行っているが、なかなか広がっていない。	
A Lの手法等の情報の教員間での共有を行う。	C	各授業者は、それぞれ研究・実践を行っているが、なかなか広がっていない。	
外部の研修や勉強会に積極的に参加する。	A	各担当者がそれぞれに参加した。	
多くの先生方がI C T機器を用いて授業が行えるようにI C T機器の整備を行う。	B	7号館の整備はほぼ完了した。本館も各教室にプロジェクター設置は出来ないが、I C T授業を行う環境はある。	